

気象観測史上、記録更新にもなった酷暑と大雨の夏が過ぎ、秋風が頭を垂れた稲穂を揺らしています。今年も稲刈り作業が盛りのころとなりました。

東白川村の唯一の公共交通である濃飛バスは、営業所やバスの維持費の増加による採算性の低下、運転手の不足、路線の削減や土日、祝日の運休などの措置を行い、何とか今日まで継続してまいりました。それでも公共交通としての維持は難しく、将来のこの地域の公共交通のあり方について、平成 28 年度から白川町と一緒に協力を重ねてきました。8 月 29 日に開催された第 9 回の協議会で、本年 10 月からの新しい形での協議が成立し、国への届出が行なわれ、10 月 1 日から濃飛バスと関連する東白川村の代行運送の概要が決まりました。

その内容は概ね次の通りです。

- (1)東白川村と白川口駅までの白川・東白川線は継続・増便して土日、祝日も運行します。一部路線短縮される部分は村の代行バスを運行します。
- (2)料金が 1 回の乗車 200 円に統一され、格段に安くなります。村の代行バスは無料で、乗り継いでも大明神から白川口駅まで 200 円です。
- (3)JR の高山線との連絡がより良くなり、白川中央線(バス)との乗り継ぎも便利になっています。

今回の改正で村の財政負担は 50%増になると予想しています。

地域公共交通の費用対効果を考えると賛否両論があるかと思いますが、私は

- ・誰もが一層便利に利用できる公共交通手段があること
- ・村内から美濃加茂市方面の高校へ通う高校生の利便性が高まること
- ・JR 高山本線から乗り継いで東白川村へ来ることができる手段を常に確保していること

以上のことは大変重要な意義があり、過疎化に歯止めをかける上でも絶対に欠かせない重要な要素であると考えております。

どうか公共交通の火を消さないためにも、一層のご利用をお願いするものです。

本村出身でドキュメンタリー映画「鳥の道を越えて」の監督今井友樹さんが、全国各地で言い伝えや搜索に懸賞金をかけたイベントが実施されている「つちのこ」を題材にした映画を制作中です。その一環として「この全国的な現象である「つちのこ」搜索の活動、あるいは「つちのこ」伝承について民俗学的に研究しておられる台湾・南台科技大学助理教授の伊藤龍平(いとう りょうへい)氏による「つちのこのいま、むかし」という講演会が開催されました。

まさに東白川村ならではの講演会で、関心のある大勢の皆さんに聴講いただき、交流の機会ともなりました。伊藤先生は全国各地の伝承や古文書を引用しながら伝承、妖怪、イベントなどのキーワードで『つちのこ学?』の一端を述べられました。長年「つちのこ」に関わっている一人として、大変興味深い講演内容でした。

来年こそは 30 回記念の「つちのこフェスタ」を開催できるよう、今から準備を始めたいと思います。

平成 30 年 9 月

東白川村長 今井俊郎